

## 学年別指導において互いに学びを深め合う授業の創造

栗 山 義 人〔鹿児島大学教育学部附属小学校〕

### Originated Tuition for Deepening Learning in Each Grade Teaching of Combined Class

KURIYAMA Yoshito

キーワード：複式学級，学年別指導，授業，直接指導，間接指導

#### 1 研究の背景

少子化や核家族化が進む今日、県下において複式学級を有する小学校は、全体の約半数に及んでいる。このような中、同一学級内に同学年や異学年の友達がいる異年齢集団の中で学び合い、課題を解決していく能力や態度を培うことは、多くの複式学級を有する本県にあって重要な課題となっている。

とりわけ、県下の複式学級で多く行われている学年別指導では、「多様な考えが出にくい」「考えに高まりが見られにくい」等、子ども一人一人の考えの多様性や発展性に着目した課題が挙げられることが多い。それは、それぞれの学年で異なる内容を同時に指導するため、教師が「ずらし」や「わたり」といった指導内容や指導方法に関わる工夫に困難を感じ、その結果、直接指導や間接指導が子どもの学びに結び付いたものになっていないからだと考える。

よって、県下で多く行われている学年別指導において、子ども一人一人が互いに学びを深め合う

ような授業について研究することが、複式教育の充実のために求められている。

#### 2 研究の方向

本校では、二つの学年がそれぞれの学年の内容を学習する学年別指導においても、学びが途切れることなく、各学年の学習内容を身に付けることが大切であると考え。

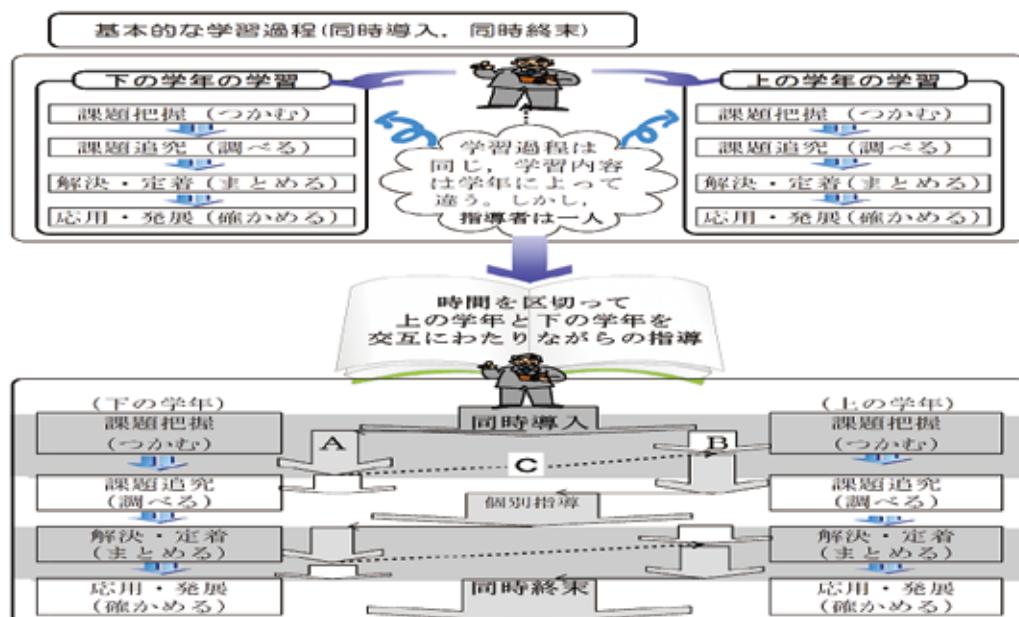
そのために、本校では、表1のような学びを深める「学び方」を設定し、間接指導時においても直接指導時の教師の働きかけやガイドの指示の下に、子ども自らが学習に取り組み、子ども一人一人の考えを高めていけるようにしてきた。

ただし、このような学びを深める「学び方」は、学習内容や学習方法と関連付けて、実際の子どもの話し合いに反映されなければ子どもの学びとなり得ない。

よって、本研究では、学びを深める「学び方」を発揮しながら、話し合いを活性化させる言語活動を重点化し、学習内容や学習方法と関連させる

【表1 同学年で学びを深める「学び方」系統表】

	1 学年	2 学年	3 学年	4 学年	5 学年	6 学年
聞き方	相手の知らせたいことは何かを考えながら聞く。		相違点や共通点はどこか、自分と相手の考えを比較しながら聞く。		相違点や共通点はどこか、相手の考えや考え方と比較しながら聞く。	
伝え方	相手に分かりやすい言葉で伝える。		図や言葉などを活用して伝える。		図や言葉、具体物などを活用したり、例示したりして伝える。	
問い返し方	分からないところを問い返す。		考えの分からないところを問い返す。		考えや考え方の分からないところを問い返す。	



A: 直接指導 B: 間接指導 C: わたり

【図2 学年別指導の例】

研究を進めることで、直接指導や間接指導が子どもの学びに結び付いたものになり、互いに学びを深め合う授業になると考え、次のようなテーマを設定し研究を進めることにした。

学年別指導において互いに学びを深め合う授業の創造

### 3 学年別指導において互いに学びを深め合う授業とは

学年別指導とは、教科の特性を踏まえ、上の学年と下の学年の子どもにそれぞれの学年の学習内容を別々に指導する指導類型である。学年別指導では、図2のように二つの学年が同じ学習過程で同時に進める中で、時間を区切って教師が交互に渡りながら指導したり、二つの学年の学習過程をずらしたりしてそれぞれの学年の基礎的・基本的な内容が定着するようにしている。

学年別指導において「学び」とは、それぞれの学年の基礎的・基本的な内容を身に付けていくために、直接指導と間接指導が組み合わさった学習

において、自ら課題をとらえ、見通しや自分なりの考えをもち、互いの考えについて話し合う中で子ども一人一人が考えを高めていく過程である。

また、学年別指導において「学びを深め合う授業」とは、子どもたちが主体的に学習を進め、互いの考えについての話し合いが活性化していけるような授業のことである。そうすることで、子どもたちが自分の考えを伝え合い、互いの考えについて、共通点や相違点について話し合う中で、個々の考えが強固・付加・修正され、考えの多様性や発展性を実感しながら学習内容を身に付けていけると考える。

### 4 学年別指導において互いに学びを深め合う授業の創造に当たって

#### (1) 互いに学びを深め合う「学び方」を発揮する言語活動の重点化

これまでの本校の研究で、表3をもとにして学びを深める「学び方」が発揮できる話し合い活動を、目標・内容・方法の分析で洗い出し、それを単元指導計画に位置付けることが子どもの学びに有効であることが明らかになっている。

【表2 同学年で学びを深める「学び方」系統表】

	1 学年	2 学年	3 学年	4 学年	5 学年	6 学年
聞き方	相手の知らせたいことは何かを考えながら聞く。		相違点や共通点はどこか、自分と相手の考えを比較しながら聞く。		相違点や共通点はどこか、相手の考えや考え方と比較しながら聞く。	
伝え方	相手に分かりやすい言葉で伝える。		図や言葉などを活用して伝える。		図や言葉、具体物などを活用したり、例示したりして伝える。	
問い返し方	分からないところを問い返す。		考えの分からないところを問い返す。		考えや考え方の分からないところを問い返す。	

【表3 学びを深める「学び方」の重点化】

	第1・2 学年	第3・4 学年	第5・6 学年
聞き方	・ メモ		→
伝え方	・ 事物の説明	→ 出来事の説明	→ 資料を提示しながらの説明
	・ 経験の報告	→ 調査の報告	→ 資料を提示しながらの報告
	・ あいさつ		→ 推薦
	・ 連絡		→ 意見を記述した文章
問い返し方	・ 紹介	→ 調べて報告する文章	→ 活動を報告した文章
	・ 報告する文章	→ 説明する文章	・ 編集
	・ 説明する文章		・ 事物のよさを多くの人に伝えるための文章
	・ 簡単な手紙	→ 目的に合わせた手紙	
全て	・ 感想	→ 意見	→ 助言、提案
	・ 応答	・ 読み取ったことを基にした話し方、聞き方	
	・ グループでの話し合い	→ 学級全体での話し合い	→ 討論

そこで、互いに学びを深め合うために、これまでの研究の成果である表3をもとに、学びを深める「学び方」が発揮される言語活動を発達の段階ごとに重点化し、教科の学習内容と関連させながら、充実を図るようにした。

## (2) 互いに学びを深め合う学習内容

直接指導と間接指導を組み合わせた学年別指導において、学習内容を設定する際は、子ども自らが課題をとらえ、解決していくことができるようにすることが求められる。そのため単元や一単位

時間で指導する基礎的・基本的な内容を明確にした上で、各学年の学習の方法や条件をそろえ、子どもの学習内容を教科の本質を踏まえ、精選していくが必要になる。

また、学年別指導において、学びを深め合う学習内容を設定するに当たっては、児童の実態を踏まえた上で、多様な考えの表出や話し合いにつながるように、前項の言語活動との関連も考えながら、次の手順で各学年の学習内容を設定する。

① 単元(題材)、本時で身に付けさせる基礎的・基本的な内容を明確にする。

② 単元(題材)の系統性や前時と本時、本時と次時などの一単位時間のつながりをとらえ、本時の基礎的・基本的な内容を支えるもの(既習事項やそれを生かした考え)を明確にする。

※ 本時で身に付けさせたい基礎的・基本的な内容を、子どもたちが自らとらえやすくするために、これまで学習した内容との関連や系統を明確にする。

③ 基礎的・基本的な内容を身に付けさせるために、直接指導と間接指導のバランスを考慮して、「まとめる」際の話し合いの中心となる言語活動を明らかにする。

※ 子ども一人一人が、本時の学習を通して、基礎的・基本的な内容を身に付けるためには、どのような言語活動を重視し、展開すればよいのかを見極める。

※ それぞれの学年の内容によって、各過程の時間設定を調節して、「ずらし」や「わたり」のタイミングを決める。

### (3) 互いに学びを深め合う学習方法

学年別指導においては、教師がかかわれない間接指導があっても、子どもが自らが学習を進めていけるように指導方法を工夫する必要がある。

特に、互いの考えについての話し合いを活性化させるための準備として、時間の目安を考えさせながら、学習を進めさせたり、活動の順序を板書したりする。具体的には、次のような働きかけが大切である。

#### ○ 学習進行計画表の活用

子ども一人一人に学習の見通しをもたせるために、個々の考えを相互に伝え合い、何についてどのように話し合うのか、話し合いの観点や話し合い方(手順や方法)を黑板上に示していくことが大切である。子どもたちが、その学習進行計画表を見ながら自ら学習を進められるようにするためには、子どもたちと話し合いながら、時間設定していく。

#### ○ 板書の工夫

学びを深める話し合いを活性化させるため

には、子どもたちだけでも学習を進められるように、板書の中に手がかりとなる「めあて」などの札や吹き出しを準備し、活動の見通しをもたせることが大切である。また、子どもたちの考えを表出や比較、吟味が行われやすい板書の確保をすることも必要である。



【第6学年「生き物はつながりの中に」板書写真】

次に、「まとめる」段階を活性化させるために、子ども一人一人に考えをしっかりとらせたり、子ども同士で互いの考えを理解させたり比べさせたりする必要がある。具体的には、次のような働きかけが大切である。

#### ○ 小黑板の活用

話し合いを活性化させるためには、子どもたちの多様な考えを表出しやすく、それを基に相互の考えについて吟味しやすいようにする必要がある。子ども一人一人の考えを表出させ全体に示して説明したり、多様な考えを比較しながら話し合い、共通点や相違点を見出したりするために、小黑板への表し方を共通理解させる必要がある。例えば、左側に図で表し、右側に考えを書き、理由や根拠を明確にして、説明させることが大切である。

#### ○ わたる前とわたった後の見届け

一方の学年にわたる前に指示を指示を明確にする。そして、子ども一人一人が考えをもつための活動に取り組んでいるかを確認し取り組めていない場合は、助言する。わたった後には、子どもたちの学習状況を確認し、考えの取り上げ方等を考えて行く。

#### ○ 学びを実感する発問や問い返し

子どもたちに、学びを実感させるためには、教師が子どもから表出されなかった考え等を提示して、それについて考えさせる発問や問い返しが必要である。このことで、自分たちの学びを子ども自身が再度吟味することになり、さらに学びを深め合うことになる。

## 5 学年別指導において互いに学びを深め合う授業の実際

これまでの研究内容を反映し、国語と算数で実践を行った。

具体的には、国語では、まず5年生に報告文、6年生に意見文という言語活動を重点化するとともに、指導案中のゴシック体で示された発問をすることで、話し合いが活性化するようにした。また、算数では、筆算や図など多様な考えを結び付けて話し合わせるという言語活動を重点化するとともに、子どもからは表出しなかった指導案中のゴシック体で示された新たな考えを提示することで、話し合いが活性化するようにした。

### (1) 国語の実践（単元名）

要旨をとらえよう（教材「サクラソウとトラマルハナバチ」光村5年上）

### ③ 実際

主な学習活動（第5学年）		主な学習活動（第6学年）
1 本時のめあてを確認する。 <div> <div>サクラソウとトラマルハナバチは、どのようなつながりがあるのだろうか。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時のめあてのキーワードは、「つながり」だね。</li> <li>・きっと強いつながりがあると思う。</li> </ul> </div>	(分)	1 本時のめあてを確認する。 <div> <div>生き物は、ロボットにはないどのようなつながりがあるのだろうか。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時のめあてのキーワードは、「つながり」だね。</li> <li>・たくさんつながりがあると思う。</li> </ul> </div>
2 学習の進め方を確認する。 <div>一人調べ→発表→話し合い→まとめ→音読</div>	5	2 学習の進め方を確認する。 <div>音読→一人調べ→発表→話し合い→まとめ</div>
3 サクラソウとトラマルハナバチのつながりについて話し合う。 <div> <div> <div>サクラソウ</div> <div> <div>〔開花の時期〕</div> <div>・他の花より少し早くさく。</div> </div> <div> <div>トラマルハナバチ</div> <div> <div>〔くらし方〕</div> <div>・時期に合わせたくらし方をする。</div> </div> </div> <div> <div>〔花の形〕</div> <div>・深いところにみつをためる形になっている。</div> </div> <div> <div>〔体のつくり〕</div> <div>・長い舌がある。</div> </div> </div> </div>	4	3 教材文を音読する。 <div>・ベアで段落ごとに音読する。</div>
<div> <div>（こうして）びったりの、よい協力者</div> <div> <div>なぜ、すぐにつながりを説明すればいいのに、筆者の問いかけがあるのだろう。</div> <div>読み手を引きつけ、何を述べるかがはつきりするから。</div> </div> </div>	5	4 生き物のもつつながりについて話し合う。 <div> <div>本物のイヌ</div> <div> <div>外とのつながり</div> <div>一つの個体としてのつながり</div> <div>過去の生き物たちとのつながり</div> </div> </div>
4 本時の学習についてまとめる。 <div>長い時間をかけてお互いの利益になるように体の形を変えたり、生活周期を調整したりしてきたつながりがある。</div>	10	<div>（この）つながりこそが、生き物の生き物らしいところ</div> <div> <div>なぜ、すぐにロボットとの違いを説明すればいいのに、同じに見えることを説明しているのだろう。</div> <div>読み手を引きつけ、読み手も考えながら読むことができるから。</div> </div>
5 教材文を音読する。 <div>・ベアで段落ごとに音読する。</div>	8	5 本時の学習についてまとめる。 <div>外とのつながり、一つの個体としてのつながり、過去の生き物たちとのつながりがある。</div>
6 本時の学習をふり返り、友達の発表等のよかったところを話し合う。 <div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・やっぱり強いつながりがあったことが分かった。（強固）</li> <li>・一つの段落だけでなく、他の段落のことも考えると筆者の考えがよりはっきりするね。（付加）</li> <li>・これからは、筆者の問いかけに対する答えを探そうにしよう。（修正）</li> </ul> </div>	8	6 本時の学習をふり返り、友達の発表等のよかったところを話し合う。
	5	

## (2) 算数の実践

第3学年「かけ算のひっ算」、第4学年「1けたでわるわり算」

### ① 目標

繰り上がりのない  
(3位数) × (1位数)  
の計算の仕方を考える  
活動を通して、被乗数  
が3位数になっても、  
位ごとに分けると乗法  
九九を使って計算しや  
すくなることに気付  
き、正しく計算するこ  
とができる。

繰り下がりのある  
(3位数) ÷ (1位数)  
の計算の仕方を考える  
活動を通して、被除数  
が3位数になっても、  
位ごとに分けると乗法  
九九を使って計算しや  
すくなることに気付  
き、正しく計算するこ  
とができる。

### ③ 実際

主な学習活動 (第3学年)	教師の位置	主な学習活動 (第4学年)
1 学習課題を受けとめる。  1 しゅうの長さが312mあるジョギングコースがありま す。3 しゅう走りました。ぜんぶで何m走ったでしょう か。  ・かけられる数が3けたになったね。 ・くり上がりはないよ。 ・2けたの時と同じようにできるんじゃないかな。(類推的 な考え方) 2 学習問題を焦点化する。  くり上がりのない(3けた) × (1けた) のかけ算は、 どのようにして計算すればよいのだろうか。 3 312 × 3 の計算の仕方を考え、小黑板にまとめて話し合 う。(聞き方・伝え方)  [たし算で] 312 + 312 + 312 ↓ 312 312 312 ・答えは936で正しいね ・3回たすのは、面倒だ。  [絵や図で] 100 100 100 10 1 1 ・100や10、1のまとま りだと考えやすい  ↓ どれもまとまりで考えている。  [筆算で] 3 1 2 × 3 9 3 6 ・かけ算九九がすぐ 使える。  [312を分けて] 300 × 3 = 900 10 × 3 = 30 2 × 3 = 6 ・かけ算九九が使える。  50 × 3 = 150 262 × 3 = ? ・この分け方ではどうかな。 ・計算が多いのでめんどく さい。 ・かけられる数を位ごとに分 けて考えると、すぐにかけ算 九九を使えるから計算しやす くなる。(単位の考え) 4 本時の学習についてまとめる。  2けたのかけ算と同じようにかけられる数を位ごとに分 けると計算しやすくなる。 5 他の場合でも、同じ考えで計算できるか確かめる。 423 × 2 121 × 4 6 本時の学習を振り返り、友達の発表や質問のよかったと ころを話し合う。  ・やっぱり位ごとに分けて考えると便利だなと思いました。(強固) ・ただ、分けるだけでなくなぜ位に分けて計算するとよいのか分かりました。(付加) ・筆算と位ごとに分けて考えることは、同じことだと分かりました。(修正)	(分)	1 学習課題を受けとめる。  548まいの色紙を、4人で同じ数ずつ分けます。1人分は、 何枚になるでしょう。  ・前の時間と同じようにわられる数は3けただね。 ・くり下がりがあるよ。 ・2けたの時と同じようにできるんじゃないかな。(類推的 な考え方) 2 学習問題を焦点化する。  くり下がりのある(3けた) ÷ (1けた) のわり算は、 どのようにして計算すればよいのだろうか。 3 548 ÷ 4 の計算の仕方を考え、小黑板にまとめて話し合 う。(聞き方・伝え方)  [かけ算で] □ × 4 = 548 100 × 4 = 400 37 × 4 = 148 ・あまりなく分けられる。 ・かけられる数を考えな いといけない。  [絵や図で] 100 10 10 10 1 1 1 1 1 1 1 1 ・100や10、1のまとま りだと考えやすい  ↓ どれもまとまりで考えている。  [筆算で] 1 3 7 4 / 5 4 8 4 ・かけ算九九がすぐ 使える。  [548を分けて] 400 ÷ 4 = 100 100 ÷ 4 = 25 48 ÷ 4 = 12 ・今まで学習したかけ算が 使える。  200 ÷ 4 = 50 384 ÷ 4 = ? ・この分け方ではどうかな。 ・計算が多いのでめんどく さい。 ・わられる数を位ごとに分けて 考えると、すぐにかけ算九九 を使えるから計算しやすくな る。(単位の考え) 4 本時の学習についてまとめる。  2けたのわり算と同じようにわられる数を位ごとに分け ると計算しやすくなる。 5 他の場合でも、同じ考えで計算できるか確かめる。 628 ÷ 4 861 ÷ 7 6 本時の学習を振り返り、友達の発表や質問のよかったと ころを話し合う。

## ② 本時の展開に当たって

本時では、単に被乗数や被除数を分解するだけ  
でなく、位ごとに分けるよさを実感させることが  
大切である。そこで、3年生では、「ふかめる」  
段階で、互いの考えを交流させたり、位ごとに分  
けていない場合と比較させたりして展開してい  
く。また、4年生では、互いの考えの共通点や相  
違点を明確にさせたり、位ごとに分けていない場  
合と比較させたりして展開していく。

### (3) 結果と考察

#### ① 国語

- 5年生は報告文，6年生は意見文という言葉活動を設定することで，話し合いの観点が明確になり，学びを深める「学び方」を発揮することができた。
- 5年生は問題提示文の必要性，6年生は同じに見えるという説明の必要性について問うことで，自分たちの学びを再度吟味し，学びを深め合っていた。

#### ② 算数

- 5年生，6年生とも，多様な方法で考えを表出させることで，それぞれの考えを関連させながら話し合うことができ，学びを深める「学び方」を発揮することができた。
- 3年生は，互いの考えを交流させたり，位ごとに分けていない場合と比較させ，4年生は，互いの考えの共通点や相違点を明確にさせたりすることで，自分たちの学びを再度吟味し，学びを深め合っていた。

## 6 研究の成果と課題

### (1) 成果

- 学びを深める「学び方」を発揮する言語活動を重点化し，それを学習内容や学習方法に反映したことで，子どもたちが互いに学びを深め合うことができた。

### (2) 課題

- 国語や算数以外の教科等でも実践し，その教科の特性を踏まえた学びを深める「学び方」を模索する必要がある。

### 【主な参考文献】

- 文部科学省「小学校学習指導要領」（東洋館出版社 平成20年）
- 文部科学省「小学校学習指導要領解説 総則編」（東洋館出版社 平成20年）
- 文部科学省「小学校学習指導要領解説 国語編」（東洋館出版社 平成20年）
- 文部科学省「小学校学習指導要領解説 算数編」（東洋館出版社 平成20年）